

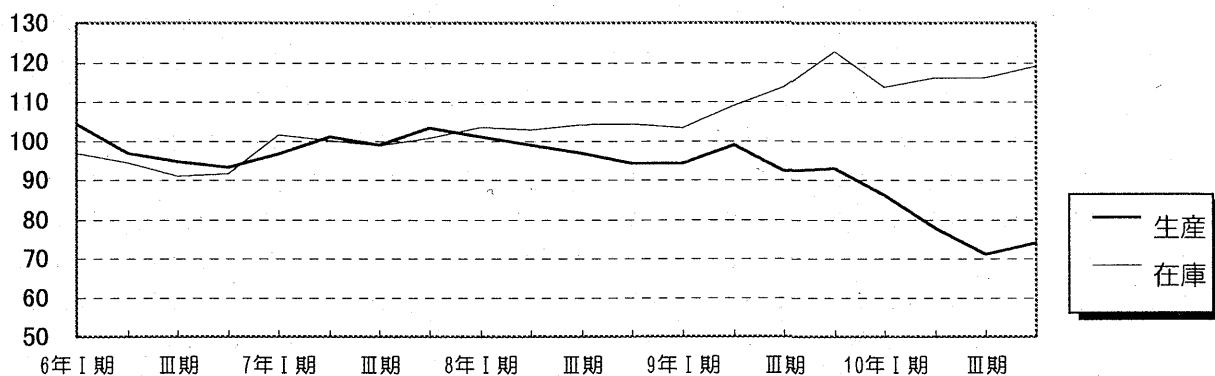
Ⅱ 業種別鉱工業生産及び生産者製品在庫の動き

1 鉄鋼業

平成10年の県内鉄鋼業の生産指数は77.3で、対前年比18.2%減少した。

四半期別にみると、1～3月期は86.1（対前期比7.5%減）、4～6月期は77.8（同9.6%減）、7～9月期は71.1（同8.5%減）、10～12月期は74.1（同4.2%増）となった。

一方、在庫指数の年平均は116.2で、対前年比3.8%増加した。これを四半期別にみると、1～3月期は113.7（対前期比7.4%減）、4～6月期は116.1（同2.2%増）、7～9月期は116.2（同0.1%増）、10～12月期は119.0（同2.4%増）となった。

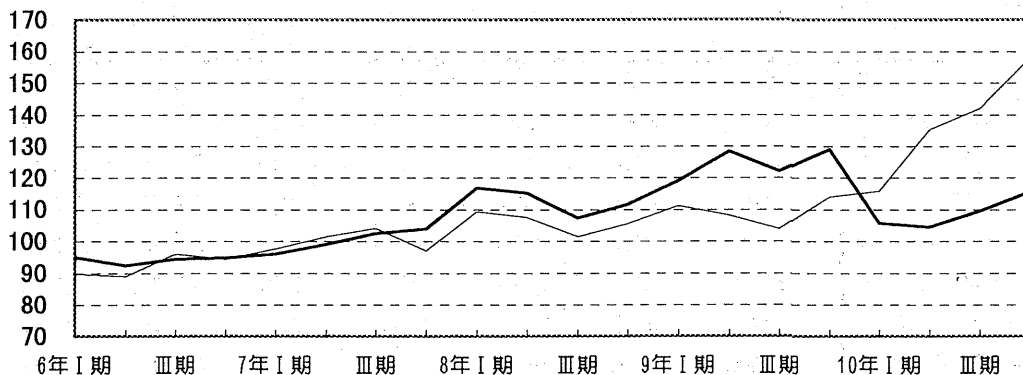


2 非鉄金属工業

平成10年の県内非鉄金属工業の生産指数は108.9で、対前年比12.2%減少した。

四半期別にみると、1～3月期は105.9（対前期比17.9%減）、4～6月期は104.5（同1.3%減）、7～9月期は109.6（同4.8%増）、10～12月期は115.4（同5.3%増）となった。

一方、在庫指数の年平均は137.7で、対前年比26.0%増加した。これを四半期別にみると、1～3月期は115.6（対前期比1.3%増）、4～6月期は135.3（同17.0%増）、7～9月期は142.0（同4.9%増）、10～12月期は158.3（同11.5%増）となった。



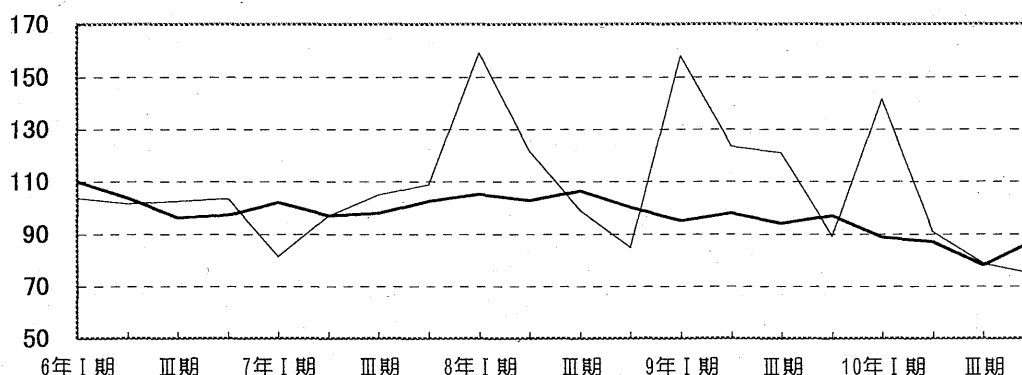
3 金属製品工業

平成10年の県内金属製品工業の生産指数は86.1で、対前年比10.0%減少した。

四半期別にみると、1～3月期は88.7（対前期比8.7%減）、4～6月期は87.0（同2.0%減）、7～9月期は78.0（同10.3%減）、10～12月期は87.3（同11.9%増）となった。

一方、在庫指数の年平均は93.0で、対前年比22.9%減少した。

これを四半期別にみると、1～3月期は141.5（対前期比58.5%増）、4～6月期は91.0（同35.7%減）、7～9月期は78.7（同13.5%減）、10～12月期は74.7（同5.1%減）となった。

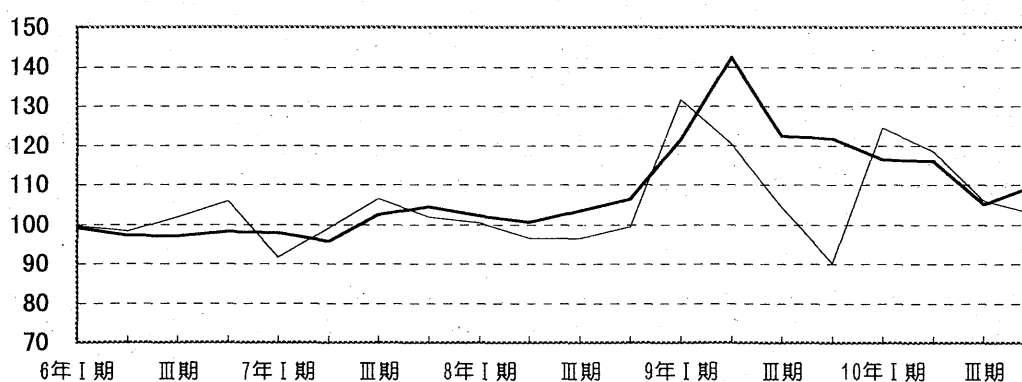


4 一般機械工業

平成10年の県内一般機械工業の生産指数は111.7で、対前年比11.7%減少した。

四半期別にみると、1～3月期は116.3（対前期比4.5%減）、4～6月期は116.1（同0.2%減）、7～9月期は105.1（同9.5%減）、10～12月期は109.7（同4.4%増）となった。

一方、在庫指数の年平均は112.8で、対前年比1.8%増加した。これを四半期別にみると、1～3月期は124.4（対前期比38.0%増）、4～6月期は118.4（同4.8%減）、7～9月期は105.9（同10.6%減）、10～12月期は102.6（同3.1%減）となった。

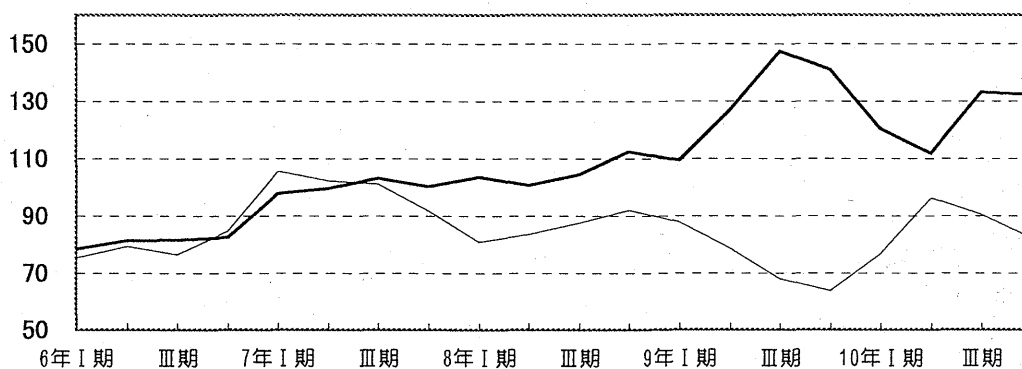


5 電気機械工業

平成10年の県内電気機械工業の生産指数は124.2で、対前年比4.5%減少した。

四半期別にみると、1～3月期は120.5（対前期比14.5%減）、4～6月期は111.8（同7.2%減）、7～9月期は133.3（同19.2%増）、10～12月期は132.2（同0.8%減）となった。

一方、在庫指数の年平均は86.3で、対前年比16.2%増加した。これを四半期別にみると、1～3月期は76.6（対前期比20.4%増）、4～6月期は96.2（同25.5%増）、7～9月期は90.6（同5.9%減）、10～12月期は82.2（同9.2%減）となった。

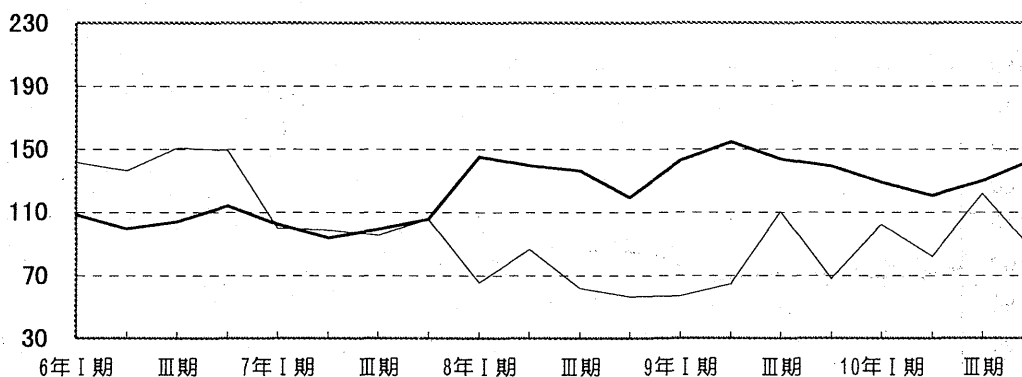


6 輸送機械工業

平成10年の県内輸送機械工業の生産指数は130.4で、対前年比9.9%減少した。

四半期別にみると、1～3月期は129.0（対前期比7.2%減）、4～6月期は120.2（同6.8%減）、7～9月期は129.4（同7.7%増）、10～12月期は143.1（同10.6%増）となった。

一方、在庫指数の年平均は96.6で、対前年比39.6%増加した。これを四半期別にみると、1～3月期は102.3（対前期比51.0%増）、4～6月期は82.2（同19.7%減）、7～9月期は121.3（同47.7%増）、10～12月期は85.7（同29.3%減）となった。

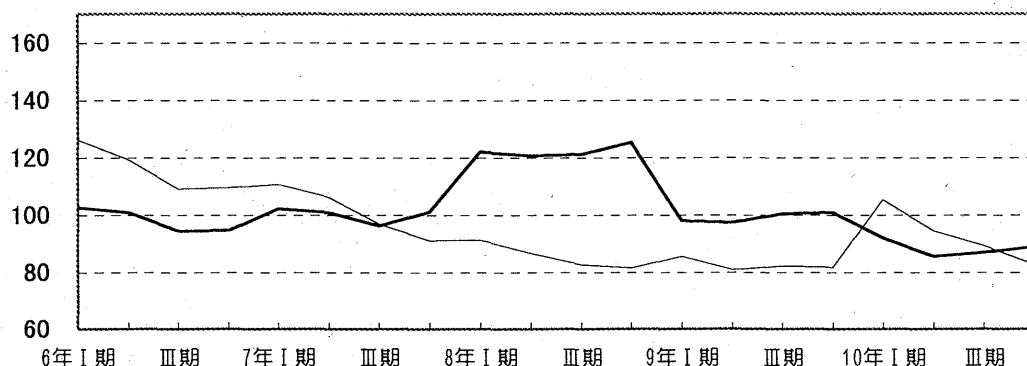


7 窯業・土石製品工業

平成10年の県内窯業・土石製品工業の生産指数は88.5で、対前年比10.8%減少した。

四半期別にみると、1～3月期は92.0（対前期比8.9%減）、4～6月期は85.5（同7.0%減）、7～9月期は86.9（同1.6%増）、10～12月期は88.8（同2.2%増）となった。

一方、在庫指数の年平均は92.4で、対前年比12.3%増加した。四半期別にみると、1～3月期は105.5（対前期比29.0%増）、4～6月期は94.3（同10.6%減）、7～9月期は89.4（同5.2%減）、10～12月期は82.6（同7.6%減）となった。

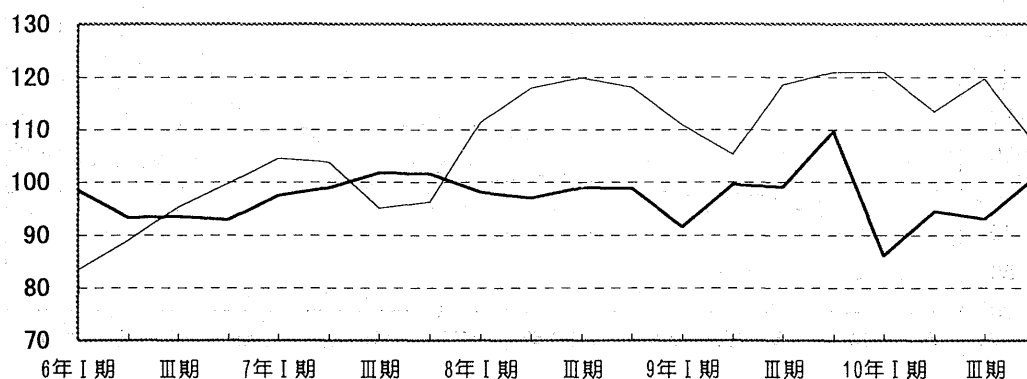


8 化学工業

平成10年の県内化学工業の生産指数は93.7で、対前年比5.8%減少した。

四半期別にみると、1～3月期は86.1（対前期比21.4%減）、4～6月期は94.6（同9.8%増）、7～9月期は93.0（同1.6%減）、10～12月期は100.8（同8.3%増）となった。

一方、在庫指数の年平均は115.3で、対前年比1.5%増加した。これを四半期別にみると、1～3月期は121.0（対前期比増減なし）、4～6月期は113.4（同6.3%減）、7～9月期は119.6（同5.5%増）、10～12月期は107.2（同10.3%減）となった。

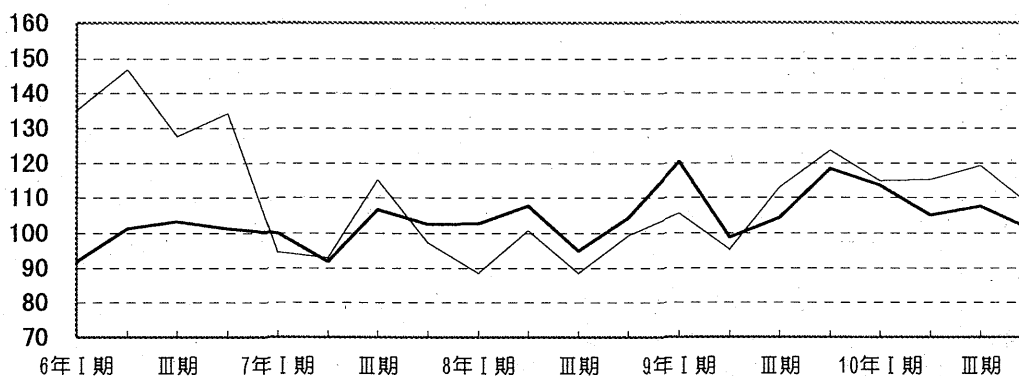


9 石油・石炭製品工業

平成10年の県内石油・石炭製品工業の生産指数は107.0で、対前年比2.7%減少した。

四半期別にみると、1～3月期は113.6（対前期比4.0%減）、4～6月期は105.1（同7.5%減）、7～9月期は107.8（同2.5%増）、10～12月期は101.1（同6.2%減）となった。

一方、在庫指数の年平均は114.1で、対前年比4.6%増加した。これを四半期別にみると、1～3月期は114.7（対前期比7.2%減）、4～6月期は115.2（同0.4%増）、7～9月期は119.1（同3.4%増）、10～12月期は107.9（同9.4%減）となった。

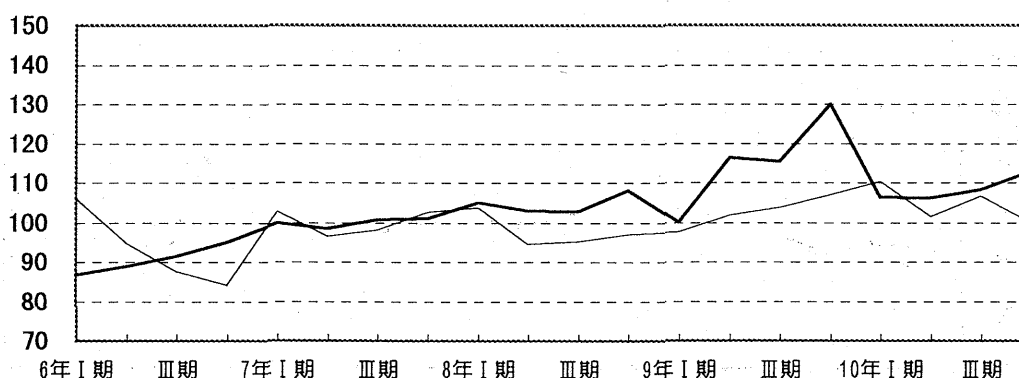


10 プラスチック製品工業

平成10年の県内プラスチック製品工業の生産指数は108.2で、対前年比5.7%減少した。

四半期別にみると、1～3月期は106.2（対前期比18.2%減）、4～6月期は106.1（同0.1%減）、7～9月期は108.2（同2.0%増）、10～12月期は113.0（同4.4%増）となった。

一方、在庫指数の年平均は104.7で、対前年比2.0%増加した。これを四半期別にみると、1～3月期は114.0（対前期比3.3%増）、4～6月期は101.6（同8.0%減）、7～9月期は106.6（同4.9%増）、10～12月期は100.0（同6.2%減）となった。

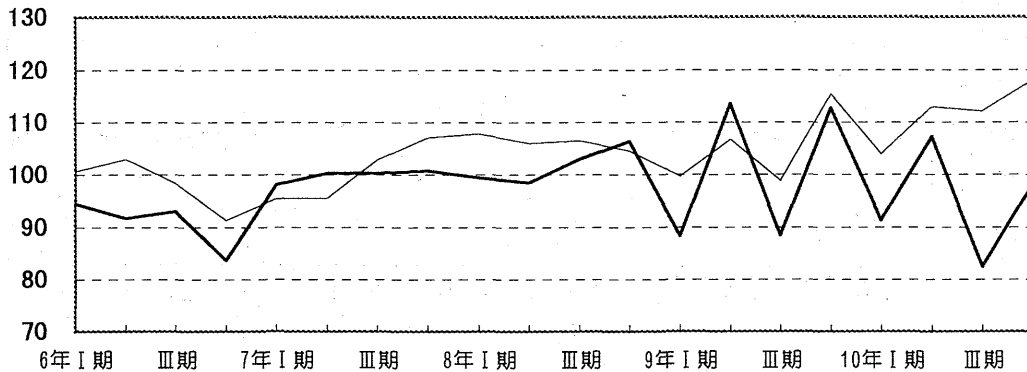


1.1 パルプ・紙・紙加工品工業

平成10年の県内パルプ・紙・紙加工品工業の生産指数は94.1で、対前年比5.3%減少した。

四半期別にみると、1～3月期は91.3（対前期比19.0%減）、4～6月期は107.2（同17.5%増）、7～9月期は82.4（同23.1%減）、10～12月期は98.1（同19.0%増）となった。

一方、在庫指数の年平均は111.6で、対前年比6.6%増加した。これを四半期別にみると、1～3月期は103.9（対前期比9.9%減）、4～6月期は112.9（同8.7%増）、7～9月期は112.1（同0.7%減）、10～12月期は118.0（同5.3%増）となった。

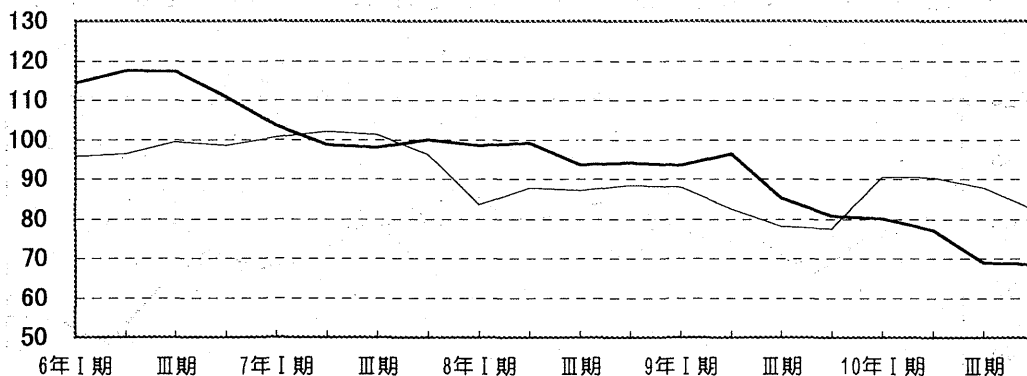


1.2 繊維工業

平成10年の県内繊維工業の生産指数は73.4で、対前年比17.2%減少した。

四半期別にみると、1～3月期は80.1（対前期比0.7%減）、4～6月期は77.1（同3.7%減）、7～9月期は68.8（同10.8%減）、10～12月期は68.5（同0.4%減）となった。

一方、在庫指数の年平均は87.6で、対前年比7.7%増加した。これを四半期別にみると、1～3月期は90.5（対前期比16.9%増）、4～6月期は90.3（同0.2%増）、7～9月期は87.7（同2.9%減）、10～12月期は82.4（同6.0%減）となった。



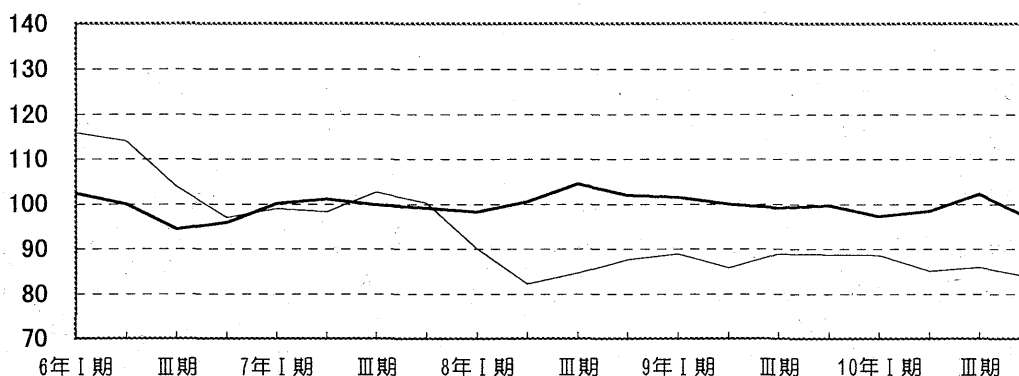
13 食料品工業

平成10年の県内食料品工業の生産指数は98.7で、対前年比1.4%減少した。

四半期別にみると、1～3月期は97.3（対前期比2.4%減）、4～6月期は98.5（同1.3%増）、7～9月期は102.2（同3.7%増）、10～12月期は96.9（同5.2%減）となった。

一方、在庫指数の年平均は85.9で、対前年比2.5%減少した。

これを四半期別にみると、1～3月期は88.7（対前期比増減なし）、4～6月期は85.0（同4.1%減）、7～9月期は86.0（同1.1%増）、10月～12月期は83.7（同2.6%減）となった。

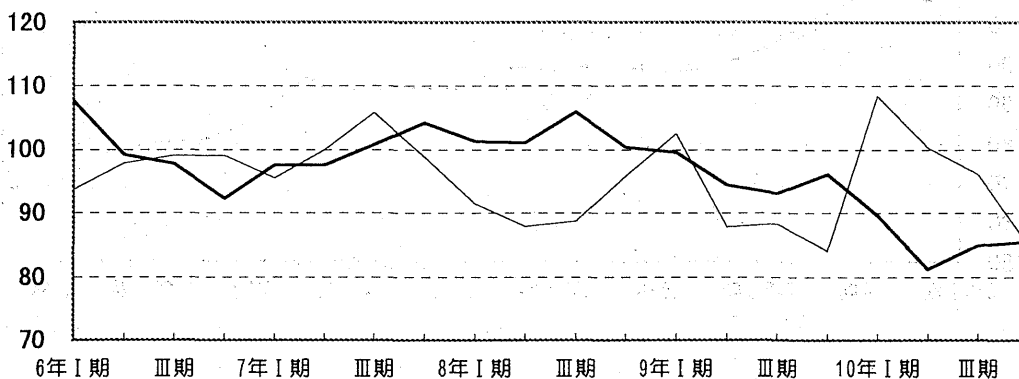


14 その他工業

平成10年の県内その他工業の生産指数は85.3で、対前年比10.9%減少した。各業種の対前年比をみると、ゴム製品工業1.4%の減、家具工業24.4%の減、木材・木製品工業16.0%の減、その他製品工業20.6%の減であった。

四半期別にみると、1～3月期は89.6（対前期比6.7%減）、4～6月期は81.2（同9.4%減）、7～9月期は84.8（同4.5%増）、10～12月期は85.4（同0.7%増）となった。

一方、在庫指数の年平均は97.1で、対前年比7.3%増加した。各業種の対前年比をみると、ゴム製品工業4.2%の減、家具工業1.9%の減、木材・木製品工業30.0%の増であった。これを四半期別にみると、1～3月期は108.4（対前期比29.0%増）、4～6月期は100.3（同7.5%減）、7～9月期は96.1（同4.2%減）、10～12月期は85.0（同11.6%減）となった。

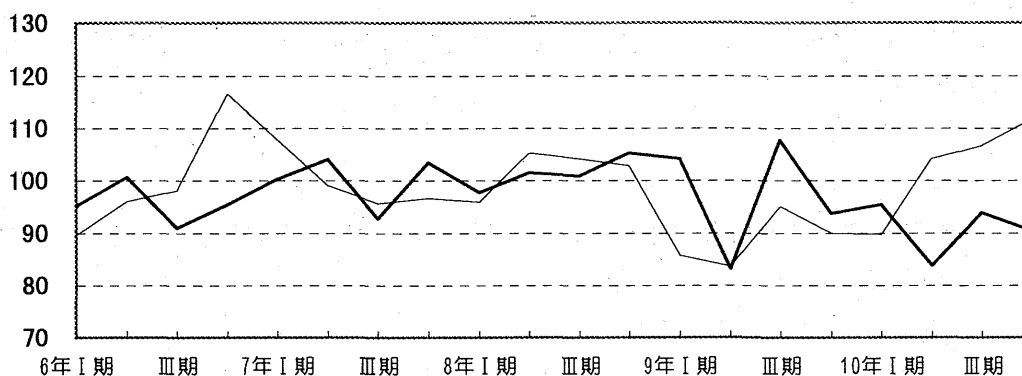


15 鉱業

平成10年の県内鉱業の生産指数は90.9で、対前年比6.1%減少した。

四半期別にみると、1～3月期は95.4(対前期比1.7%増)、4～6月期は83.7(同12.3%減)、7～9月期は93.9(同12.2%増)、10～12月期は90.3(同3.8%減)となった。

一方、**在庫指数の年平均は102.9で、対前年比16.3%増加した。**これを四半期別にみると、1～3月期は89.8(対前期比0.3%減)、4～6月期は104.2(同16.0%増)、7～9月期は106.5(同2.3%増)、10～12月期は111.7(同4.8%増)となった。



16 公益事業(参考)

平成10年の県内公益事業の生産指数は157.1で、対前年比0.3%増加した。

四半期別にみると、1～3月期は153.9(対前期比4.0%減)、4～6月期は158.3(同2.9%増)7～9月期は173.3(同9.5%増)、10～12月期は143.9(同16.9%減)となった。



「指数」とは？

指数をあえて一言でいうならば、おなじ種類の統計数値の大きさを、比率にして表したもの、という事になります。

比較のもととなる「基準」を設けて、その基準を「100」として指数をあらわします。

それでは、なぜ「指数」を作る必要があるのでしょうか？

異なる時点、場所、単位の数値を比較する時に、単純に実数値だけを比べるだけでは「動き」までを見る事ができません。

たとえば、Aという工場とBという工場があり、ともに去年にくらべて100トン生産が伸びたとしましょう。これだけをみれば同じ100トンの伸びですが、前年の生産を基準としてみた時に、前年はA工場は50トン、B工場は1000トンの生産だったとしたら、どうでしょうか？

A工場は2倍の伸びになりましたが、B工場は1割の伸びにとどまっていることがわかります。

このように、異なる時点、場所の比較を行なうために、また異なった単位の統計数値を比較するには、指数はとても便利な指標であるといえます。